

## 第 62 回市民事業専門委員会 会議結果報告

(事務局) 定刻となりました。ただいまより、第62回市民事業専門委員会を開会させていただきます。始めに水源環境保全課長の羽鹿からご挨拶させていただきます。

(羽鹿課長) お忙しいところ、ご出席いただき、ありがとうございます。水源環境保全課長の羽鹿と申します。よろしくお願いいたします。平成19年度より、20年間の期間を定め開始したこの水源環境保全・再生の取組も、半分の10年が過ぎ、様々な効果が現れてきているところです。

しかし、将来に渡って良好な水源環境を維持していくため、後半の10年は行政の取組だけでなく県民全体でこの施策を支えていくことが重要であり、この市民事業支援を通じ、多くの県民の方に自ら水源環境を守るための活動に携わっていただければと考えております。

委員の皆様方にはこの事業がより効果的に実施されますよう、補助金の審査あるいはその他ご指導をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(事務局) 会議につきましては、県民会議の扱いを準用し、市民事業専門委員会 設置要綱 第5条により原則公開とさせていただきます。ただし、補助対象事業を審査する場合には非公開とさせていただきます。次に、第5期の1回目ということで、委員の方をご紹介します。

(出席者名簿により委員紹介)

(事務局) これより議事に入らせていただきますが、議事の進行につきましては、委員長をお決めいただくまでの間は、事務局が進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

### ■議題1：委員長の選任について

(事務局) では、議題1、委員長の選任でございます。参考資料1「県民会議設置要綱」をご覧ください。

第6条4第項において、委員長は、委員の互選により選任することとなっておりますが、どなたか、立候補、若しくはご推挙いただければと思いますが、いかがでしょうか。

(林委員) 委員会の活動に詳しくて、前回も委員長をされている増田委員が適任と思われませんが、いかがでしょうか。

(事務局) 委員の皆様、いかがでしょうか。

(全委員) 異議なし。

(事務局) 増田委員、林委員からご推薦があり、委員の皆さんも賛同とのことですが、ご承諾いただけますでしょうか。

(増田委員) ご推薦いただきまして、ありがとうございます。では2年間、微力ながら務めさせていただきます。

(事務局) それでは、委員長は、増田委員にご就任いただきます。また、副委員長の指名でございますが、副委員長は、委員長が指名することになっておりますので、ご指名いただくとともに、ここからの進行につきましては増田委員長にお願いしたいと思っております。

(増田委員長) 副委員長の指名でございますが、NPOや市民活動に深い見識をお持ちの谷本委員にお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(谷本副委員長) よろしく申し上げます。

### ■議題2：市民事業専門委員会のこれまでの取組成果と課題【資料1】

(増田委員長) それでは、議題2「市民事業専門委員会のこれまでの取組成果と課題」ですが、事務局より資料について説明をお願いします。

(事務局) 事務局より資料(資料1)に基づき説明。

(増田委員長) 事務局より、課題については、取り急ぎ検討する③「新たな支援団体の開拓」、④「財政面以外の支援」については、議題3の資料で説明するとの話がありましたが、議題2について、意見がありましたら、お願いします。

(青砥委員) 平成24年度より定着支援と高度化支援の2つの支援部門を設定したステップアップ方式による、市民事業支援補助金制度を開始したとあるが、具体的な違いを教えてください。

(事務局) 定着支援部門は水源環境保全・再生に係る市民事業の定着を図ろうとする団体で、申請事業に類する活動を始めて3年未満の団体を対象とし、高度化支援部門は申請事業に類する活動を始めて3年以上の団体を対象としています。高度化支援部門の活動内容は定着支援部門よりも高度なものとなっており、補助金の上限額も違います。

(増田委員長) 高度化支援部門では、自立化に向けた継続性があるかなども必要とされています。

(青砥委員) 審査の時は内容面も見ますか。補助を受ける立場としては、3年経ったので内容は変わらないけど高度化支援部門で申請する団体もいるのでは。

(事務局) 定着支援部門と比べスキルアップされているかなどは、審査のときに判断していただくこととなります。

(増田委員長) 今後、定着支援部門と高度化支援部門のはっきりとしたすみ分けを検討できればと思います。

### ■議題3：市民事業専門委員会の活動について【資料2】

(増田委員長) 続きまして、議題3「市民事業専門委員会の活動について」、事務局より資料について説明をお願いします。

(事務局) 事務局より資料(資料2～5-2)に基づき説明。

(増田委員長) 事務局より年間スケジュール案が示されましたが、このようなスケジュールでよろしいでしょうか。

(委員一同) 異議なし。

#### ① 市民事業支援補助金スケジュール【資料3-1～3-3】

(増田委員長) 補助金募集案内(資料3-2)やチラシ(資料3-3)で使用している定着支援部門、高度化支援部門の違いが分かりづらいので、文言を変更する必要があるのではないのでしょうか。本日は議論する時間がないので、次回の委員会で議論したいと思います。皆さんいかがですか。

(谷本副委員長) 言葉の使い方だと思います。イメージがつきづらいので、馴染みのある文言に変更したほうがよいのではないのでしょうか。例えば、定着支援部門であればスタンドアップ、高度化支援部門では、レベルアップやスキルアップなど。

(増田委員長) 委員からの意見を踏まえ、次回の委員会までに事務局のほうでチラシと一緒に修正案を出してもらいたい。

#### 【新たな支援団体の開拓について】【資料3-4】

(増田委員長) 事務局から説明があったように、なかなか対策に結びつかない状況です。何か提案があれば意見をお願いします。

(谷本副委員長) 市民活動センターよりも各市町村の環境セクションにチラシを配架したほうが、地域で活動している団体に周知できるのではないのでしょうか。

(増田委員長) 環境農政局環境部資源循環推進課では、神奈川工科大学とタッグを組んで、レジ袋削減の啓発活動を行っており、若者を取り込んで行う活動もある。それから、人の顔を見て名刺代わりに渡せるも

のが、効果があると感じます。また、小田急線沿いの伊勢原駅、渋谷駅、秦野駅などでチラシを置いてもらえれば、非常に有効と思います。

## ② 現場訪問企画（案）【資料4】

（増田委員長） 昨年の現場訪問の際使用した評価シートですが、現場での評価に活用するには合わない。団体は取組んでいる活動内容を話したいので、こちらの質問と回答が一致しないこともあり、評価ランクをつけるのは難しい。評価の仕方については、昨年度と違うものを作ったほうがよいと思います。

（服部委員） 評価の必要はないと思う。団体が活動していく上での課題を聞き取り、お互いが意見交換できる場になればよいので。昨年は、評価シートが全然書けなかった。

（林委員） 団体がどういった経緯で活動し、委員会に何を望んでいるのか、それを確認し受け止めることが一番の成果だと思うので、今回訪問する団体が何を望んでいるのか、それが分かればよいと思います。

（増田委員長） 昨年は、今発言した3名で参加しましたが、評価シート形式になると現場の生の声が聞けなくなる。現場の声を聞くことが重要なので、今年度は、評価形式ではないものを作ったほうがよいと思います。

## ③ 市民事業交流会企画（案）【資料5-1~5-2】

（増田委員長） 先ほど事務局から説明があったとおり、補助団体の活動紹介展示をしていただくことになり、団体から体験教室（クリスマスリース）や間伐材を利用した作品などの出展をして頂きます。また、県民フォーラムについては、補助団体の方を講師として講演していただくという案のようです。

（林委員） 交流会企画案の2は、これから細部を詰めていくという段階なのですか。

（事務局） そのとおりです。

（谷本副委員長） この交流会の趣旨は、補助団体の活動周知なのでしょうか。

（増田委員長） それと、団体間の交流の場です。

（谷本副委員長） その場合、展示会をメインにするのか、団体間の交流をメインにするのか、両方というのは難しいと思います。団体間の問題を報告し合えるような場もあったほうがよいのではないのでしょうか。

（服部委員） 県民フォーラムとの合同開催ということでもあるので、県民フォーラムチームが何をやるのか、両方を視野に入れる必要がある。例えば、我々が仲間同士の交流やスキルアップのほうに重点を置くのであれば、県民フォーラムチームは展示も含めてやってくださいというやり方もあると思います。

（増田委員長） これまでは県民フォーラムの会場ロビーで活動展を参加者に見て頂いたり、説明をしていました。しかし団体の方が県民フォーラムに参加すると、団体間の意見交換が不十分になり、或いは休憩時間に多くの参加者が活動展を見ていると、自分たちが説明するのに忙しく、団体間の交流が出来なくなるというメリット・デメリットがありました。どこに軸足を置くかということですね。

（林委員） この会場は、駅に隣接しているのですか。

（事務局） 隣接しています。200メートルくらいのビルに入っています。

（谷本副委員長） その会場は駅に隣接しているものの、商業施設のどこが入口なのか、動線が分かりづらかった。目的を持って来ている方にしか分からないので、しずくちゃんなどで案内し、呼び込んだほうがよいと思います。

（増田委員長） 呼び込みは、道の分からない人を想定して、企画する必要がありますね。今意見がでた、団体の交流を目的とするのか、アピールを重点に置くのか、団体から意見は出ているのですか。

（事務局） まだ団体からの意見は伺っていません。

（増田委員長） 県民フォーラムチームはどういう考えでいるのですか。

（事務局） 県民フォーラムチームもまだしっかり決まっておらず、テーマも決まっていません。3週間前に各会場を確認してきたばかりで、8月のフォーラムチームの会合でテーマ等を整理したいと考えてい

ます。

(増田委員長) 事務局が会場に行ったときは、人の出入り、会場利用者が大勢いたのですか。

(事務局) 会合を開催したのが夜だったので、動線が土曜日、日曜日と異なります。セミナールームを利用している人は来られていましたが、一般の方は見受けられませんでした。普段は人通りがなく、商業施設に買い物に来た方が自然に会場に来るところではありません。

(林委員) 商業施設と隣接していて、買い物に来る人はいるのですか。

(事務局) それはいます。

(林委員) そういう人達を上手く誘導できれば。

(服部委員) 交流会参加団体の人は、セミナーに参加するのですか。

(増田委員長) 1団体で何人も参加しているので、セミナーに参加する人もいます。

(増田委員長) 1人は展示現場に残ると思われますが。

(服部委員) 残った人達で交流会を開いたらどうでしょうか。

(増田委員長) 名刺交換は既に行っていると思いますが、それ以上の交流は中々できていませんね。

(服部委員) 平成25年度にワールド・カフェを行ったが。

(増田委員長) そうですね、今年度じゃなくても来年度に案として出せばいいと考えています。

(谷本副委員長) 今年度で補助期間が終了する団体もいるので、今後どうやって自立するかという悩みもあり、その辺りの人間関係が築けたらよいですね。

(増田委員長) 昨年、現場訪問に行ったのが卒業団体に、「何とかならないか」と言われた。支援の延長などはできなくても、課題等を聞くことはできる。神奈川県から土手の草刈りの請負で30万円くらいもらっているという生の話も聞いた。県民フォーラムとのタイアップは、展示するのはいいが実際は交流会ではなく、活動紹介展です。初期の頃の交流会では、ポストイットで課題を抽出し、団体と委員で課題を出し合った。段々進化して、ワールド・カフェやファンレイジング講座も実施したが、進化だけではなく、足場を固めるということも大事だと思います。

(谷本副委員長) 毎年行う必要はないと思いますが、その時々で変えられたら。

(服部委員) 13時から17時というのは、県民フォーラムチームと一緒にやる時間ですか。

(事務局) まだ事務局の担当案ですが、講演会の前後を交流会で利用したいと考えています。

(服部委員) フォーラムチームが違うことを考えているかも知れないので、よく調整したほうがよいですね。

(増田委員長) 8月にフォーラムチームの会合があるので、今日の意見はそちらにもお話しいただき、そこで決まってから、次の市民事業専門委員会のときに決めるということによろしいでしょうか。

(委員一同) 異議なし

#### ■議題4：平成28年度市民事業支援補助金事業実績及び平成29年度交付決定状況について

(増田委員長) 事務局より、資料について説明をお願いします。

(事務局) 事務局より資料(資料6-1、6-2)に基づき説明。

(増田委員長) 議題4について、意見がありましたらお願いします。

(増田委員長) 特にないようですので、以上で、本日の議題は全て終了いたしました。他に皆様から何かございましたらお願いします。

(増田委員長) 以上で、第62回市民事業専門委員会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

以上